

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19320119  
 研究課題名（和文） 近世ヨーロッパの戦争から見る国家とアイデンティティの形成に関する総合的研究  
 研究課題名（英文） The Synthetic Study about the Formation of States and Identity from the viewpoint of Wars in Early Modern Europe  
 研究代表者  
 渋谷 聡（SHIBUTANI AKIRA）  
 島根大学・法文学部・教授  
 研究者番号：30273915

研究成果の概要（和文）：本研究は、近世ヨーロッパにおける独自の政治社会の形成について、戦争という視点から問い直すことを目的とする。我が国の近世ヨーロッパ史研究においても受容されてきた、政治社会の形成に関するいくつかの重要な理論的枠組みを、戦争との関連から再検討することを試みた。ドイツ・アウクスブルク大学・ヨーロッパ文化史研究所（研究協力者）から協力をえつつ、3年間に4回の研究集会を組織して、討論を行い、報告内容をもとにして、冊子体の研究成果報告書を作成した。

研究成果の概要（英文）：This research project aims to reexamine the formation of political society from the viewpoint of wars in early modern Europe. Based on the cooperation from Institut for Cultural History (Augsburg University, Germany), we organized the project seminars with in-depth discussions four times in the past three years and published a report about them.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2008年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
2009年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
年度			
年度			
総計	12,800,000	3,840,000	16,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：西洋史、戦争、国家、アイデンティティ、国際研究者交流

## 1. 研究開始当初の背景

(1) ヨーロッパの近世（15世紀末から18世紀末）は、他の時代には類例をみないほど、戦争が頻発した時代であった。従来の研究において、戦争を対象とした研究は戦史や軍事技術、戦略・戦術が対象とされてきた一方、本来歴史学が明らかにすべき時代的特性に迫るための研究視角として、

戦争はほとんどタブー視されてきた。しかしながら近年の研究は、「戦争と社会との関連」を明らかにする「軍隊の社会史」をはじめとして、近世300年にわたる政治・社会・文化的動向の背景に、この時代に頻発した戦争の影響を指摘している。

(2) このような研究動向の背景には、ヨハ

ネス・ブルクハルト(アウクスブルク大学・ヨーロッパ文化史研究所教授)に代表される、ドイツにおける近年の研究動向がある。ブルクハルトは、「戦争の頻発」を近世の時代的特徴であるとし、戦争を焦点にした近世ヨーロッパの体系的な把握を目指した。彼の試みの中核をなすのは、「戦争の頻発」をもたらした原因を、主権国家および形成途上の諸国家体系の不安定さに求めようとする認識である。こうした認識から、国家「間」の戦争であった近代以降の戦争とは異なり、国家ないしは国家への帰属意識を形成する主要因として戦争を捉える視点が得られた。

## 2. 研究の目的

(1) 複合的かつ多様な組織形態をとった近世ヨーロッパ諸地域における国家(複合国家)の有様、さらにはこれら諸国家から生み出されつつあった、諸国家体系(いわゆるウェストファリア・システム)の可能性と限界について、戦争との関連から明らかにする。

(2) 近年のわが国の西洋史学界においても取り組まれてきた、アイデンティティの形成(自国への帰属意識ないしは敵国意識の形成)について、戦争の視点から、さらに追究する。

## 3. 研究の方法

(1) 以下のような研究体制を取り、研究を実施する。

渋谷 聡(代表者)	ドイツにおける戦争と国家形成および研究の総括
指 昭博(分担者)	イギリスにおける戦争とアイデンティティ
井内太郎(分担者)	イギリスにおける戦争と国家形成
小山 哲(分担者)	ポーランドにおける戦争とアイデンティティ
佐々木真(分担者)	フランスにおける戦争と王権、王権のプロパガンダとアイデンティティ
古谷大輔(分担者)	スウェーデンにおける戦争と国家形成

(2) 本研究計画の参加者は、年間2回の研究打ち合わせ会、年間1回のヨーロッパでの資料収集、研究情報の交換を軸としながら、研究を発展させる。ヨーロッパでの資料収集とあわせて、アウクスブルク大学(ド

イツ)のヨーロッパ文化史研究所にも赴き、J・ブルクハルト教授、E・J・ウェーバー教授のもとで研究会を開催し、研究代表者・分担者の研究を国際レベルに高めていく。研究会での報告内容をもとにして、冊子体の研究成果報告書(和文版、欧文版)を作成することで、成果全般にわたる総括を行う。本報告書をもとにして、書籍の刊行を目指す。

## 4. 研究成果

### (1) 2007年度

3年間の研究計画の初年度である2007年度においては、代表者および各分担者はそれぞれの担当領域にかんする先行研究について、文献収集と研究史の整理を行い、あわせて随時、後述するように、調査・分析結果を研究打ち合わせ会等の機会に発表し、論文等としての公表にも努めた。本研究計画の参加者は、年間2回の研究打ち合わせ会、年1回のヨーロッパでの資料収集、研究情報の交換、アウクスブルク大学・ヨーロッパ文化史研究所におけるシンポジウムへの参加等を軸としながら、研究を発展させてきた。①2007年8月30日に開催された、前記研究所主催による国際シンポジウム「近世ヨーロッパにおける戦争と平和」には、代表者の渋谷、分担者の指、佐々木が参加して、それぞれ報告を行った。②2007年9月30日、2008年2月18日には、研究打ち合わせ会を行い、参加者全員が報告を行った。とりわけ、後者の会については、これを島根大学での公開研究会として学内外に公開した。

### (2) 2008年度

前年度の成果にもとづき、3年間の研究計画の第2年度である2008年度においては、「中間総括」を行うことに重点をおいた。①そのための取り組みとして、日本西洋史学会第58回大会・小シンポジウム「近世ヨーロッパにおける戦争と国家」(5月11日島根大学)において、補助事業者全員が、各自の研究成果にもとづく報告を行った。②ドイツからの研究協力者2名を日本に招聘し、研究講演会(11月12日京都大学、15日駒澤大学)を開催し、研究情報の交換に努めた。③2009年3月26日には、島根大学で研究打ち合わせ会を行い、当該年度の研究成果を総括し、次年度にむけて研究の方向性について確認した。これらの国内での研究会に加えて、補助事業者各自はヨーロッパでの資料収集、学会等への参加などを軸としながら、研究を発展させた。

### (3) 2009年度

過去2年間の成果をふまえ、3年間の研究期間の最終年度にあたる2009年度においては、最終の総括を行うことに重点をおいた。①そのための取り組みとして、海外の研究協

力者である、J・ブルクハルト、W・E・J・ウェーバーの両氏の協力をえて、シンポジウム「近世ヨーロッパにおける平和の諸相」（11月10、11日）を、ドイツ・アウクスブルク大学ヨーロッパ文化史研究所において開催し、補助事業者が各自の研究成果にもとづく報告を行った。本シンポジウムでは、両氏を含むドイツの研究者による報告も行われた。日欧双方から提起された報告を素材として、活発な情報と意見の交換を行うことができた。②このシンポジウムへの参加に加えて、補助事業者各自はヨーロッパでの資料収集、学会等への参加などを軸にしながら、研究を進展させた。③3年間にわたる研究期間中に開催したシンポジウム等のうち、主要な3つの研究集会（前記シンポジウム報告を含む）での報告内容をもとにして、冊子体の研究成果報告書（和文版、欧文版）を作成することで、研究成果全般にわたる総括を行った。今後は、本報告書をもとにして研究課題に関する書籍の刊行を目指す。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）

- ①古谷大輔, 18世紀バルト海世界における大国ロシア像の不在-スウェーデン出身者によるロシア滞在記に関する一考察, IDUN-北欧研究, 18号, 205-218, 2009, 査読有
- ②佐々木真, ゴブラン製作所と「ルイ14世記」-タピスリーにみる王権の表象, 駒澤大学文学部研究紀要, 67号, 21-49, 2009, 査読無
- ③小山 哲, 近世ポーランド・リトアニア共和国における「自由」, 創文, 515号, 1-5, 2008, 査読無
- ④小山 哲, 「貴族の共和国」像の変容-近世ポーランド・リトアニア共和国をめぐる最近の研究動向から, 東欧史研究, 30巻, 20-38, 2008, 査読有
- ⑤古谷大輔, 三十年戦争におけるスウェーデン王国の財政構造, IDUN-北欧研究, 17号, 241-258, 2007, 査読有

〔学会発表〕（計 26 件）

- ① Akira SHIBUTANI, Friedensbildung und Reichstage im Alten Reich, Symposium “Dimensionen des Friedens im Frühneuzeitlichen Europa”, 2009. 11. 10-11, Universität Augsburg (Germany)
- ② Taro INAI, War and Finance. Taxation practice and the political limits of the Tudor States, Symposium “Dimensionen des Friedens im Frühneuzeitlichen Europa”, 2009. 11. 10-11, Universität

Augsburg (Germany)

③ Satoshi KOYAMA, Memory of war and the construction of the ethno-confessional identity in early modern Poland: the case of the siege of Jasna Gora (1655), Symposium “Dimensionen des Friedens im Frühneuzeitlichen Europa”, 2009. 11. 10-11, Universität Augsburg (Germany)

④ Makoto SASAKI, War and Peace in Almanacs during Nine Years' War, Symposium “Dimensionen des Friedens im Frühneuzeitlichen Europa”, 2009. 11. 10-11, Universität Augsburg (Germany)

⑤ Daisuke FURUYA, Transformation of Axis for Integration. On Historical Change of Discourse on Legitimacy of Sweden Empire in Early Modern Baltic Area, Symposium “Dimensionen des Friedens im Frühneuzeitlichen Europa”, 2009. 11. 10-11, Universität Augsburg (Germany)

⑥ 渋谷 聡, ヨハネス・ブルクハルトの「戦争論」とその射程-ドイツにおける二重の境界性をふまえて, 日本西洋史学会第58回大会, 2008年5月11日, 島根大学

⑦ 指 昭博, アルマダ撃退の神話化, 日本西洋史学会第58回大会, 2008年5月11日, 島根大学

⑧ 井内太郎, 近世ブリテン帝国とアルマダの戦い, 日本西洋史学会第58回大会, 2008年5月11日, 島根大学

⑨ 小山 哲, 「軍事革命」の向う岸?-近世ポーランド・リトアニア共和国における軍隊・国家・宗教, 日本西洋史学会第58回大会, 2008年5月11日, 島根大学

⑩ 佐々木真, 戦争と17世紀のフランス-正戦と王国の記憶, 日本西洋史学会第58回大会, 2008年5月11日, 島根大学

⑪ 古谷大輔, 近世バルト海世界とスウェーデン「軍事革命」, 日本西洋史学会第58回大会, 2008年5月11日, 島根大学

〔図書〕（計 9 件）

① 渋谷 聡 (編著), 報光社, 近世ヨーロッパの戦争から見る国家とアイデンティティの形成に関する総合的研究, 2010, 145

② Akira SHIBUTANI (ed.), The Synthetic Study about the Formation of States and Identity from the viewpoint of Wars in Early Modern Europe, 2010, 146

③ 佐々木真, ミネルヴァ書房, 近代ヨーロッパの探求12: 軍隊 (阪口修平・丸島宏太編著), 2009, 13-66

④ 古谷大輔, 山川出版社, 歴史的ヨーロッパの政治社会 (近藤和彦編), 2008, 74-110

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渋谷 聡 (SHIBUTANI AKIRA)  
島根大学・法文学部・教授  
研究者番号：30273915

(2) 研究分担者

指 昭博 (SASHI AKIHIRO)  
神戸市外国語大学・外国語学部・教授  
研究者番号：90196197  
井内 太郎 (INAI TARO)  
広島大学・文学研究科・教授  
研究者番号：50193537  
小山 哲 (KOYAMA SATOSHI)  
京都大学・文学研究科・教授  
研究者番号：80215425  
佐々木 真 (SASAKI MAKOTO)  
駒澤大学・文学部・准教授  
研究者番号：70265966  
古谷 大輔 (FURUYA DAISUKE)  
大阪大学・世界言語研究センター・准教授  
研究者番号：30335400